



☆ AWC事務局便り 2・3月号 ☆

循環型の暮らし

チェンライ県ムアン郡メーゴン地区のパーングラン村は、人口250名で約40世帯が暮らす村です。カトリック信者が多く村人の結束がとても強い村です。山地民の村は最近、プラスチックごみ放置の課題が多いのですが、この村はとても清潔に整えられており、道路にもごみ一つ落ちていません。

タイの山地民は、もともと農業を主体として自給自足の循環型の暮らしをしています。この村が取り組んでいるトイレで発生するメタンガスの再利用は画期的です。トイレの汚水槽に管を刺し、その管を通してメタンガスを台所の煮炊きに使用しているのです。写真では見えにくいのですが、床のところのコックをひねればガスが出るようになっています。

世界では現在約27億人の人たちが薪などを燃やして調理をしており、一回の調理でおよそたばこ2本分の煙が出ると言われています。この煙は目や肺の病気に繋がり、薪で調理する母親に背負われた5歳以下の子どもが肺がんにかかる割合は、そうではない国の6倍と言われています。できるだけ薪などで調理をしないことが望まれている中で、自宅に発生するメタンガスでご飯を作るのは素晴らしいことだと思います。自然と共に暮らしながらも工夫を凝らした循環型の生活は、SDGsの目標に大きく貢献していると思います。



ガス栓を開けると火が付き調理できます。

学校の補修作業

2月11日、おたがいさまプロジェクトのリーダーのギー先生が教え子たち8名を連れてパーングラン村のノンフォーマルエデュケーションスクールの校舎の補修作業を行いました。

パーングラン村までは、町からは車で約一時間。途中から舗装されていないガタガタ道を行きます。この学校では、町から来ている先生が一人で子どもたちを教えています。先生は火曜日から土曜日までは学校に泊まり込み、日曜と月曜日だけ町にある自宅に帰ります。村の人たちからの信頼が厚い先生です。大変残念なことに、タイ人の中には教師であっても山地民を差別する人がいますが、この先生は山地民の子どもたちが少しでも良い暮らしができるように力を尽くしています。



若者たちは、楽しみながらも一生懸命に学校の補修作業を行いました。彼らは、スラムや薬物が蔓延しているところで育っているため、熱心な子ども思いの先生との触れあいや、パーングラン村での清潔な循環型の生活を見学することが、彼らの今後の生活に良い影響を受けるのではないかと、ギー先生も期待しているそうです。様々な角度から多くの事を学び、未来に活かしてもらいたいと私たちも心から願っています。

高校生が作ったSDGs図鑑

2月5日、「SDGs図鑑」を作成している横浜女学院高校3年の土井彩優奈さんからインタビューを受けました。日頃私たちの活動にご協力いただいている同校の中越先生からのご紹介です。

この企画は、「ワンチャレ」という全国の高校生がミッションに取り組む大会の中で行われており、AWCは目標4「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいる団体としての取材でした。オンラインでの取材でしたが、熱のこもった質問がたくさんあり、予定時間をオーバーしながらも日頃の活動に関して色々なお話をさせていただきました。

2月中旬に、土井さんたちのグループが作成した「SDGs図鑑」がクリエイティブミッションの部門にてアワード(優勝)を受けたと連絡をいただきました。素晴らしいことで私たちも嬉しくなりました。

「SDGs図鑑」は以下のURLでご覧いただけます。

<https://drive.google.com/file/d/1oPfr68ITexTE2QcThIP9UKuQ06nGpTbe/view?usp=sharing>

若者たちが一生懸命に学ぶ姿に大きなエネルギーをいただくことができました。

